事務局長談話６

～安全衛生対策強化月間～自分はもとより働く仲間と家族の安全と健康を願って～

ご安全に！７月の安全衛生対策強化月間がスタートしました。

加盟組合・構成組織の事業所・職場においても、安全ビラや啓発グッズの配布、現場パトロールなど、労働災害の撲滅に向け労使一丸となって様々な活動に取り組まれることと思います。

基幹労連における 2021 年の労働災害発生状況調査（休業 4 日以上の災害）の結果では、件数・被災者数が減少に転じた 2020 年に比べ件数は微増、被災者数は同数となりました。

特徴点としては、①年齢別では、40 歳代が多い傾向に変わりはないものの、50 歳代が増加した一方、29 歳以下は減少傾向　②勤続年数別では、半数以上が 10 年未満　③経験年数別では、10 年未満の経験の浅い被災者が全体の約６割といったことが挙げられます。また、災害の型別については、依然として「挟まれ・巻き込まれ」「墜落・転落」が大半を占めている傾向に変わりはありません。

一方、厚生労働省からも令和３年の労働災害発生状況が５月 30 日に発表されています。労働災害に起因する原因で亡くなられた方は全国で 867 人と令和 2 年より増加となり、休業 4 日以上の死傷者も 149,918 人と前年に比べ 18,000 人以上の増加で平成 10 年以降で最多となっています。また、亡くなられた方の型別を見ると、墜落・転落が 217 人、挟まれ・巻き込まれが 135 人であり、この二つの型別を合わせると前年同様に全体の 4 割近くを占めています。前述のとおり、基幹労連の労働災害発生状況調査でも、この二つが突出しており、労働災害の要因がこうした傾向にあるということを踏まえ、自らの職場において、今一度、類似災害防止の観点も含めリスクの洗い出しと意識づけを行い、安全衛生活動に活かしていただければと思います。

7 月の安全衛生対策強化月間にあたり、今年も安全ポスターを募集させていただき、33 組合（加盟組合単位）の組合員およびそのご家族の方々から、総数 714 点の応募がありました。応募いただいたすべての作品で、働く仲間・家族の安全と健康を願う気持ちが溢れていました。

応募いただいたポスターは、中央本部役職員で審査を行い、優秀賞２点、三役賞５点、佳作 14 点を選考しました。審査結果は６月 24 日発行の機関紙６月号に掲載していますので、是非ご覧いただき、作品に込められた想いを感じていただければと思います。

今年もコロナ禍での夏となり、感染防止のためのマスク着用が求められる一方、熱中症防止の観点から、一定の条件下ではマスクをはずすように呼びかけられています。

暑い夏にマスクを着けることは熱中症のリスクが高まることになることから、厚生労働省は、屋外で人と２メートル以上（十分な距離）離れている時は、マスクをはずすこと推奨しています。

新型コロナウイルス感染防止の基本である、①身体的距離の確保　②マスクの着用　③手洗いの実施　④３密（密集、密接、密閉）の回避　などの対策を徹底しながら、熱中症にも十分に気をつけ、職場のみならず日常生活においても、自分はもとより働く仲間と家族の安全と健康を常に意識した行動と注意喚起につとめましょう！

全ての職場でご安全に！全ての働く仲間を思いご安全に！心を込めてご安全に！

2022 年７月１日

日本基幹産業労働組合連合会
事務局長　津村　正男